



ベッド周りの介護用品として必要な、防水シート。
最近の種類が増え、どんなタイプのシートを選べば良いのか迷う方もいらっしゃるのでは？
今号では、防水シートの基本的な特徴をご紹介します。

形状の違い

防水シートは、その形状から大きく3つに分けることができます。

①部分タイプ

横に長い形状で、腰の部分をカバーします。布団やマットレスに対し、直角に置き端を巻き込んで使用します。

②全身(前面)タイプ

布団やマットレスの前面すべてをカバーします。

裏側の四つ角にゴムが付いていて、布団やマットレスの角に引っかけて固定するのが一般的です。

③全面タイプ

コの字になっているタイプや袋状のタイプがあり、布団やマットレスの前面及び側面をカバーします。
(袋状になっているタイプは裏面までカバーできます。)



※全面タイプ断面図



●選ぶときのポイント●

失禁の少ない方や、オムツとの併用での横モレ等の対策、ベッド上での動きの少ない人には部分タイプがおすすめです。

頭と足の部分にシートがあたらないので、その分蒸れが軽減されます。

ベッド上での動きが激しい方には、全身(全面)タイプがおすすめ、防水範囲が広いので安心してご利用頂けます。反面、通気性に劣ります。

レンタルベッド使用時などは全面タイプがおすすめ。側面までカバーするので、マットレスを汚れから守ります。

部分タイプより価格が高めになります。

防水と撥水

防水シートの機能には、大きく分けて防水と撥水があります。

①防水タイプ

シートの裏面にポリウレタンフィルムなどの加工がされています。

表面が吸収した水分を裏面でブロックする為、布団やマットレスに水分が通りません。

表面がパイル地(タオル生地)のものや、デニム地の物などがあります。

②撥水タイプ

ポリエステルなどの素材に撥水の加工がされています。

裏面に加工がない為、通気性に優れていますが、圧力によって水分が浸透してしまうことがあります。

※防水イメージ



※撥水イメージ



●選ぶときのポイント●

防水タイプは、撥水タイプに比べ通気性に劣りますが、裏通ししないので布団やマットレスを汚す心配が軽減されます。

表面がタオル地のタイプは肌触りがやさしく、在宅に向いています。デニム地のタイプは耐久性に優れ、施設におすすめです。

撥水タイプは、防水タイプより通気性に優れ、蒸れが軽減できますが、圧力による浸透の可能性がある為、失禁量が多い方は注意が必要です。

丈夫なデニム地!

やわらかパイル地!

さわやか通気タイプ!



耐熱温度
130℃

生き活き デニム防水シート
M ¥3,800(税別)
L ¥4,000(税別)



乾燥機
不可

生き活き
やわらか防水シート
¥3,500(税別)



耐熱温度
130℃

生き活き 通気撥水シート
¥3,500(税別)



●防水シートは、商品によって耐熱温度が異なります。

●従来、家庭用乾燥機をご使用の場合は、防水シートの耐熱温度が80~90℃以上の物を推奨しておりますが、最近では、家庭用の乾燥機でもかなり高温の設定が可能ですので、ご使用前に防水シートの耐熱温度と乾燥機の温度設定をご確認する事をおすすめします。

